

令和2年度 学力向上研究指定校事業第2回連絡協議会・報告資料

令和2年度の取組の概要

学 校 名	大和町立吉岡小学校	主な取組教科	算数科	
研 究 主 題	確かな学力を身に付けた児童の育成 —「課題設定」と「振り返り」に重点を置いた、学びを実感させる算数科の授業づくりを通して—		研究年次	3 / 3年次

1 今年度の主な学力向上の取組と成果

学力向上の取組	成 果	評価の根拠
算数の学習に関する意識調査の実施, 変容把握	算数を学ぶ必要性を理解し, 意欲的に学習しようとする児童が増えた。	算数が「楽しい」という回答が全学年平均で2.6%増え, 「大切だ」という回答が全学年で増加し, 95%を超えたことから。
町標準学力調査(東京書籍)と全国学力・学習状況調査の実施, 結果分析, 変容把握	全学年で学習意欲が向上し, 全学年のほぼ全観点において標準スコアが向上した。	町標準学力調査の同一集団における標準スコアの変容として, 「関心・意欲・態度」について全学年で向上が見られ, 他の観点においても多くの学年で向上が見られたことから。
i-check(東京書籍)の実施, 変容把握, 調査結果を生かした指導過程の計画・実施	進んで考えを伝えたり全体で認め合ったりする児童の姿が増えた。学習習慣や学習規律が向上した。	児童一人一人の内面を客観的に把握し, 意図的に授業の中で活躍の場を設けたり, 学級づくりに生かしたりすることができたことから。自己肯定感や承認感が向上したことから。
「自己診断シート」や「授業評価シート」を用いた授業の振り返りによる教員の意識の変容把握	自身の振り返りをしたり, 授業を見る目を養ったりすることができ, 授業改善が進んだ。	本校の視点や手立てと関連付けて各シートを自校化し, 協働による授業づくりに活用したことで, 一つ一つの実践の積み上げが授業改善につながったことから。
教員の見取りによる変容把握	学び合いを通して児童の思考を深めさせることができた。	授業のねらいや児童の学習状況に応じて学び合いをコーディネートしていくことで, 考えの多様性に気付かせたり, よりよい解決方法を考えさせたりすることができたため。

2 残された課題・要因と今後の方向性

課題・要因	今後の方向性
町標準学力調査と全国学力・学習状況調査において正答率の向上が見られるものの, ほぼ全学年で全国平均正答率を下回っている。	町標準学力調査と全国学力・学習状況調査の誤答分析から各学年における学習内容の系統性を重視しながら指導するとともに, i-check や算数に関する意識調査等の結果を生かしながら個に寄り添った学習指導を行っていく。
自信をもって考えを伝えることができるという意識が全校的に低く, 学年が上がるにしたがって減少する傾向が見られる	意識調査の結果から自己肯定感や承認感の高まりが見られるため, 今後も励ましや称賛の声掛けを続けていく。また, 低学年から基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図り, 自信をもたせるとともに, 中・高学年での学習を系統的・計画的に積み上げて学習意欲を持続させていく。

◆大和町立吉岡小学校 研究関連 URL : <https://www.taiwa-tk.ed.jp/yoshioka-e/>